

令和3年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域	阿 賀 野 市												
	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	
調査項目	年度												
国語A：知識	▼99	▼99	▼98	▼98	△101	▼98	△101	▼99	△101	100	▼99	▼98	
国語B：活用	100	▼98	▼97	▼98	▼99	100	▼98	▼99	▼99	▼99			
算数A：知識	▼99	▼99	▼98	▼98	△101	100	▼99	△101	100	100	▼97	▼98	
算数B：活用	▼98	▼98	▼98	▼98	100	▼98	▼98	▼99	▼98	▼98			
理 科	*	*	*	100	*	*	▼99	*	*	▼99		*	
国語A：知識	14.4/18	11.3/18	11.9/18	13.3/17	11.7/18	10.5/15	10.0/14	10.8/15	11.4/15	8.4/12	8.7/14	8.4/14	
国語B：活用	6.2/10	5.6/12	4.4/10	5.5/11	4.8/10	5.6/10	5.5/9	5.6/10	5.0/9	4.3/8			
算数A：知識	15.4/9	13.5/19	13.4/18	13.3/19	15.1/19	13.2/17	11.9/16	12.7/16	11.7/15	8.8/14	8.4/14	10.6/16	
算数B：活用	8.4/4	6.2/13	6.9/14	7.0/13	7.6/13	7.1/13	5.4/13	5.9/13	4.7/11	4.6/10			
理 科	*	*	*	14.5/24	*	*	13.9/24	*	*	9.3/16	*	*	
調査対象	全学校	全学校	全学校	(*)全校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部、学校における教育活動一側面を示していることに留意する必要があります。

2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科、算数科ともに全国を2ポイント下回っています。平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.7問、算数科は全国平均を0.6問下回っていましたが、その差は1問以内でした。阿賀野市の児童は、国語科、算数科ともに全国よりやや低い状況であるといえます。

国語科・算数科ともに、基礎的・基本的学習内容の確実な習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成が課題です。

3 児童質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 児童の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市児童の教科に関する意識は概ね良好といえます。学力向上に向けて大事な指標となる「教科の勉強が好き」「教科の授業が分かる」についてみると、「教科の勉強が好き」については、国語科で全国を1.7ポイント、算数科は全国を8.3ポイント下回りました。「授業内容はよく分かる」の設問については、国語科は2.9ポイント、算数科では0.7ポイント全国を上回りました。

「教科の勉強は好き」という設問は、全国を下回っています。「分かる」授業と「できた」経験を積み重ねていくことが「好き」につながると考えます。

② 授業改善の推進

各小学校は、自校の学力実態を分析し、真摯に授業改善に取り組んでいます。平均正答数の全国との差は、国語及び算数ともに1問以内です。今後、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現、特に、確かな理解につながる「対話的な学び」「深い学び」の充実に向け一層の授業改善を進め、基礎的・基本的内容を確実に習得させること及び定着や習熟の時間を確保することで、児童の学力は向上すると考えます。市教育委員会としても、学習指導計画訪問・要請訪問を通し、授業改善を支援していきます。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、全国とほぼ同じか全国を上回る良好な状況にあります。「定時就寝・定時起床」以上に大事なことは、十分な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、学校での指導とともに保護者と連携し継続的に指導していく必要があります。

② 学習習慣

平日の家庭学習時間で、「1時間以上」の児童は79.7%を占め、全国を約17ポイント上回っていました。最多時間帯は「1時間以上2時間未満」です。しかし、「2時間以上」となると12.9%であり、全国を14.0ポイント下回っています。土曜日や日曜日の家庭学習時間についても「1時間以上2時間未満」が最も多く52.8%でした。これまで、各小学校では学習習慣の定着を目的として、まずは「学年×10分」を目標に指導してきました。今、「学年×10分+10分」を目指す学校も増えてきています。今後は、家庭学習の一層の時間の拡大とともに、授業内容との密接な関連を図り（例えば、復習だけでなく予習を加えるなど）、家庭学習のよさを実感させるよう、家庭学習の質を改善していく段階にあるといえます。

令和3年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市											
	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度
国語A：知識	▼98	▼98	▼98	▼97	▼96	▼99	▼97	100	▼98	▼97	▼99	▼98
国語B：活用	▼99	▼98	▼97	▼96	▼96	▼99	▼99	▼99	▼98	▼97		
数学A：知識	▼97	▼97	▼96	▼96	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96	▼97	▼95
数学B：活用	▼98	▼97	▼97	▼95	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96		
理 科	*	*	*	▼96	*	*	▼97	*	*	▼97	*	*
英 語											▼97	*
国語A：知識	29.5/37	24.0/34	24.1/33	22.4/32	22.2/32	25.2/32	23.7/32	25.2/33	23.6/32	22.7/32	7.1/10	8.6/14
国語B：活用	6.9/10	5.6/10	7.6/11	5.0/9	5.1/9	4.3/9	5.7/9	5.8/9	6.1/9	5.0/9		
数学A：知識	23.7/36	19.6/36	18.2/33	19.8/36	18.2/36	21.3/36	20.8/36	21.7/36	21.7/36	20.8/36	8.6/16	7.4/16
数学B：活用	9.3/17	6.5/15	7.3/15	5.8/15	4.5/16	7.7/15	5.2/15	6.3/15	6.6/15	5.2/14		
理 科	*	*	*	11.2/26	*	*	11.5/25	*	*	16.1/27	*	*
英 語											10.6/21	*
調査対象	全学校	全学校	全学校	(*)全学校	全学校	全学校						

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部、学校における教育活動一側面を示していることに留意する必要があります。

2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科は全国2ポイント、数学科は全国より5ポイント下回りました。また、平均正答数からみると、国語科は全国平均を0.4問、数学科は1.7問下回っていました。阿賀野市の生徒は、国語科については全国よりやや低い状況ですが、数学科は明らかに低い状況にあるといえます。

国語科・数学科ともに、基礎的・基本的学習内容の確実な習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成が課題です。

3 生徒質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 生徒の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市生徒の教科に関する意識は、設問項目の多くで肯定的回答が全国を上回っており良好といえます。

学力向上に向けて重要な要素である「教科の勉強が好き」「教科の授業が分かる」についてみると、国語科では「勉強が好き」が3.8ポイント、「授業が分かる」が2.0ポイント全国を上回りました。数学については、「勉強が好き」は0.8ポイント全国を上回りましたが、「授業内容が分かる」が全国を0.5ポイント下回りました。国語科と数学科の結果を比較すると、数学科で苦手意識がうかがわれます。「分かる授業」と「できた」という経験を積み重ねることで、苦手意識を払拭していくことが必要であると考えます。

② 授業改善の推進

教科に対する意識に比べ、学力が低い状況にあります。各中学校は、令和3年度に始まった新しい学習指導要領の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいます。各中学校の授業は、説明が主の教師主導の授業から、生徒の学習意欲を喚起し、生徒が主体となって活動する授業へと変わってきています。市教育委員会も、学習指導計画訪問や中学校学力向上プロジェクト訪問をおし、確かな理解に向け、特に課題となっている「対話的な学び」「深い学び」が実現するよう授業改善を支援をしていきます。また、定着や習熟を図る時間を確保するよう指導していきます。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」「定時就寝・起床」の規則正しさは全国以上であり、良好な状態にあるといえます。しかし、「定時就寝・起床」以上に大事なことは、実質的な睡眠時間の確保です。調査結果に満足することなく、学力及び体力・健康面も考え、保護者と連携し、継続して指導していく必要があります。

② 学習習慣

家庭学習時間について、市生徒の最多時間帯は「1時間以上2時間未満」の44.7%でした。しかし、「2時間以上」となると、全国の41.8%に体して、市生徒は19.8%でした。休日の最多時間帯も「1時間以上2時間未満」でした。全国と比較すると、市生徒の家庭学習時間は短いといえます。各中学校では、家庭学習習慣の定着を目指し、まず「1時間+学年×10分」を目標にしてきました。「1時間以上2時間未満」の生徒が一定の割合になった今、目標を一步進め、2時間以上の学習時間を確保するとともに、予習内容を含めるなどの質的改善が必要であると考えます。